

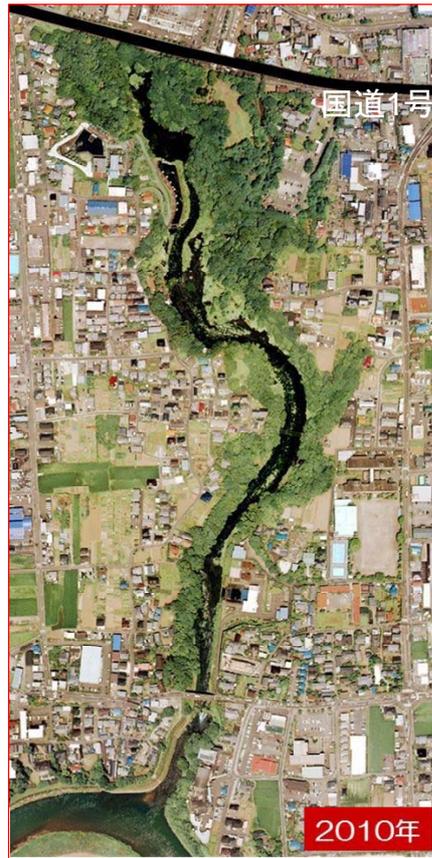
4. 柿田川における オオカワヂシャの生態と 駆除活動について

生態系グループ
研究員 山西 陽子

0. 本日のメニュー

1. 柿田川とは
2. 柿田川での自然再生事業について
3. オオカワヂシャの生態と状況
4. 今後の対策について

1. 柿田川とは 位置と概略



1. 柿田川とは 特徴

柿田川の特徴

- ・湧水河川である
- ・集水域がきわめて小さい
一年を通して水質の変動がきわめて小さく、シマバイカモ等の貴重な水生植物が生育
特異的な生態系が形成されている！



柿田川でみられる貴重な環境

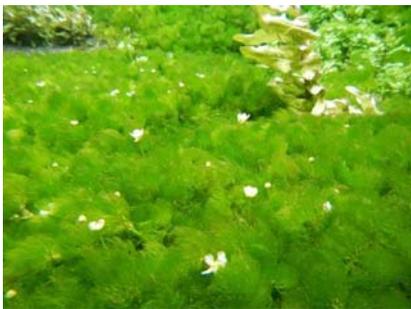
- ・湧水環境
湧水を好む朴ケドジョウやヒメアナンデールコエビが生育
- ・在来植生による水生植物群集
シマバイカモ、ヒンジモといった貴重種を含む
- ・残された河畔林とエコトーン
上記環境を利用する生物が生息

ただし、外来種の侵入などによる貴重な環境の減少が問題に。
⇒その他の課題も含め、柿田川自然再生計画が平成23年度に策定

2. 柿田川での自然再生事業について

柿田川自然再生計画における取組メニュー 1/2

重点的に取り組む 7つのメニュー	メニュー概要
(1) オオカワヂシャの駆除	<ul style="list-style-type: none"> 近年急激に分布を拡大し、在来種を被圧する等の影響を及ぼしているオオカワヂシャの駆除を実施する。
(2) その他侵略的外来植物の駆除	<ul style="list-style-type: none"> 在来種への影響が懸念される要注意外来生物ノハカタカラクサ、特定外来生物オオブタクサ、アレチウリの分布状況の実態把握と選択的な駆除を行う。
(3) 河畔林に関する緊急的課題への対策及び適切な維持管理方策の検討	<ul style="list-style-type: none"> 倒木の発生や密生化の著しい竹林の管理等、緊急的な課題への対策を実施する。 河畔林の現状把握調査を実施し、河畔林の適切な維持管理方策を検討する。



2. 柿田川での自然再生事業について

柿田川自然再生計画における取組メニュー 2/2

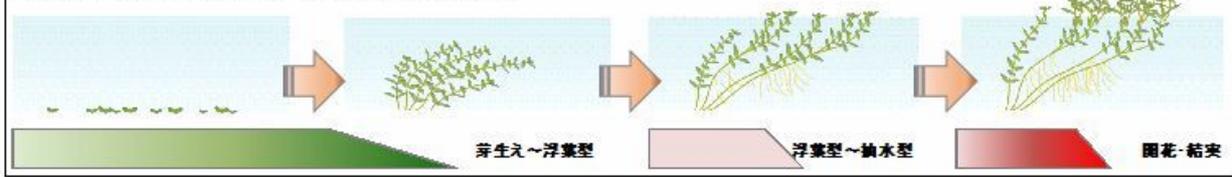
重点的に取り組む 7つのメニュー	メニュー概要
(4) 堆積土砂の撤去及びツルヨシの駆除	<ul style="list-style-type: none"> 河岸に堆積した土砂の撤去と、その上部に密生したツルヨシ群落の駆除を行う。
(5) 2号排水路撤去のための事前評価及び方針検討	<ul style="list-style-type: none"> 2号排水路の整備(撤去、移動等)を行う。 撤去による取水への影響に留意するため、撤去による影響評価を行い、取水への影響の少ない箇所から撤去を実施する。 撤去の結果を踏まえ、再度三者間協議、撤去による影響評価を実施する。
(6) 河岸の保全及び水域への土砂流出の抑制	<ul style="list-style-type: none"> 河岸洗掘箇所及び水域への土砂流入箇所への対策を実施する。
(7) 人との関わりに関する検討	<ul style="list-style-type: none"> 様々な主体による適切な維持管理方法及び環境保全に対する意識を育む場としての利用方法について検討する。 将来にわたって持続的に活動が継続する仕組みの構築を目指す。

3.オオカワヂシャの生態と状況 柿田川におけるオオカワヂシャとは？

柿田川におけるオオカワヂシャの生態

環境		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
止水域	水の流れない場所に生育するオオカワヂシャ	[Red shading indicating presence]											
流水域 (浅瀬) パターン①	5月頃に開花するパターン	[Diagonal shading indicating cycle]											
流水域 (浅瀬) パターン②	7月頃に開花するパターン	[Diagonal shading indicating cycle]											
流水域 (流心)	沈水型が分布する範囲	[Green shading indicating presence]											

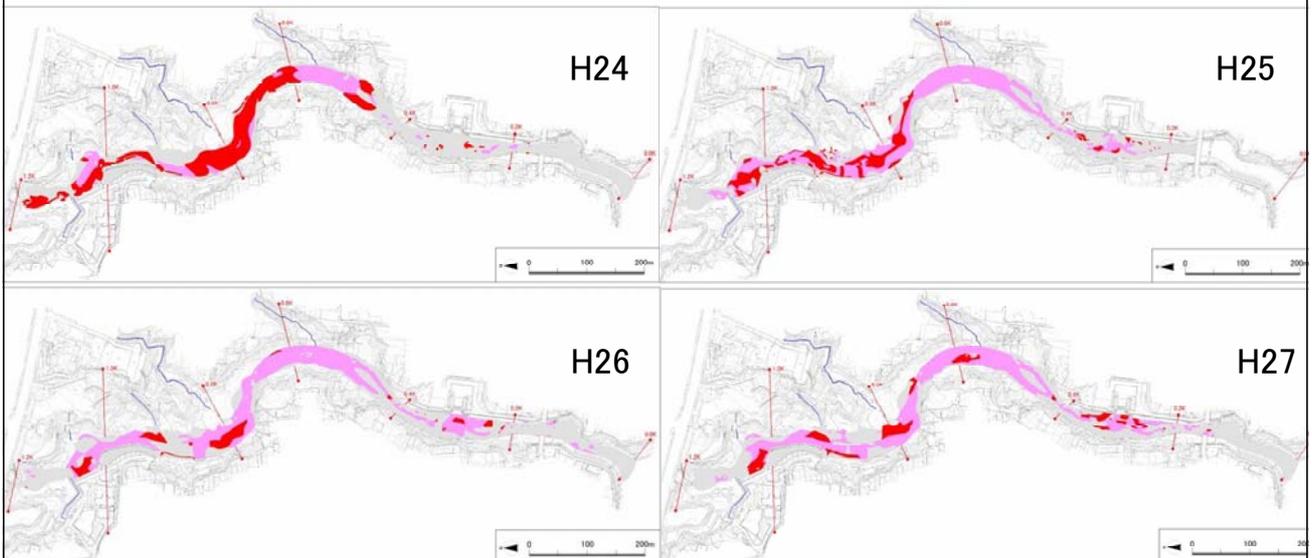
凡例：開花・結実に至る成長段階



柿田川では

- 環境により3パターンのサイクルを示す
- 発芽～結実のサイクルが年に2回以上発生し、沈水型の個体が一年中存在する

3.オオカワヂシャの生態と状況 近年の生育状況



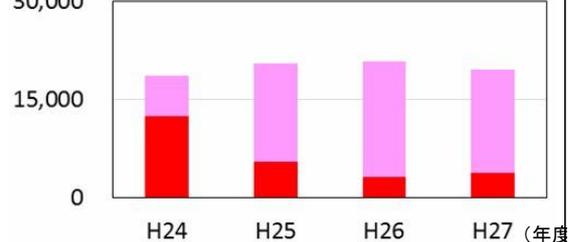
密度(高) [Red]



密度(低) [Pink]



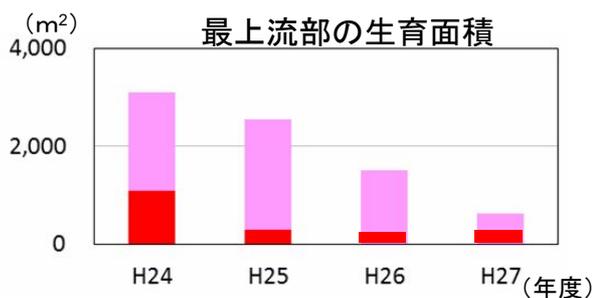
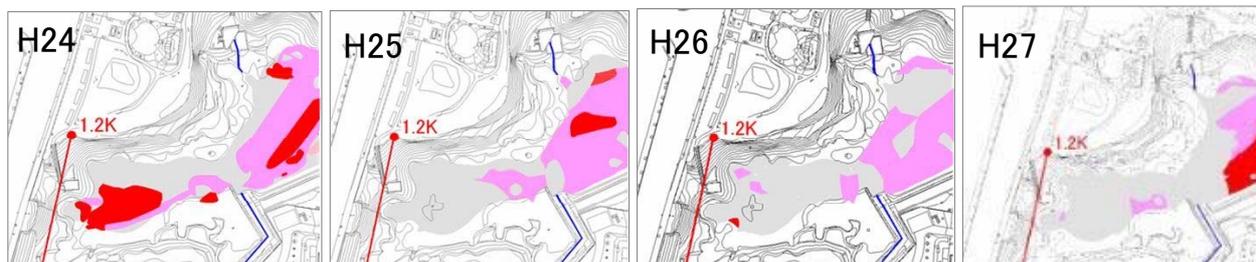
(m²) 柿田川全体の生育面積



- 密度が高い箇所 (赤) が減少
- 河川全体の生育面積は微減

3.オオカワヂシャの生態と状況 近年の生育状況

駆除を実施している箇所(最上流部)のオオカワヂシャの生育状況



駆除を実施している範囲(最上流部)に限定すると

- 密度が高い箇所(赤)が減少
- 生育面積は減少

3.オオカワヂシャの生態と状況 駆除の実施状況

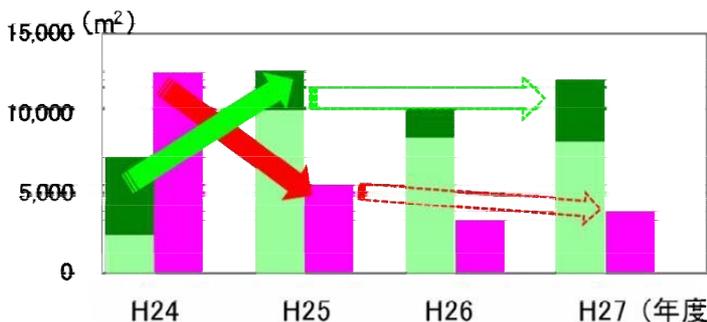
方法: 原則的に人の手による駆除

実施箇所: 川の最上流部を優先

頻度: 冬季をのぞいて基本的に月1回
 平成26年度より夏季は月2回
 → 柿田川のオオカワヂシャの生態を把握し改定

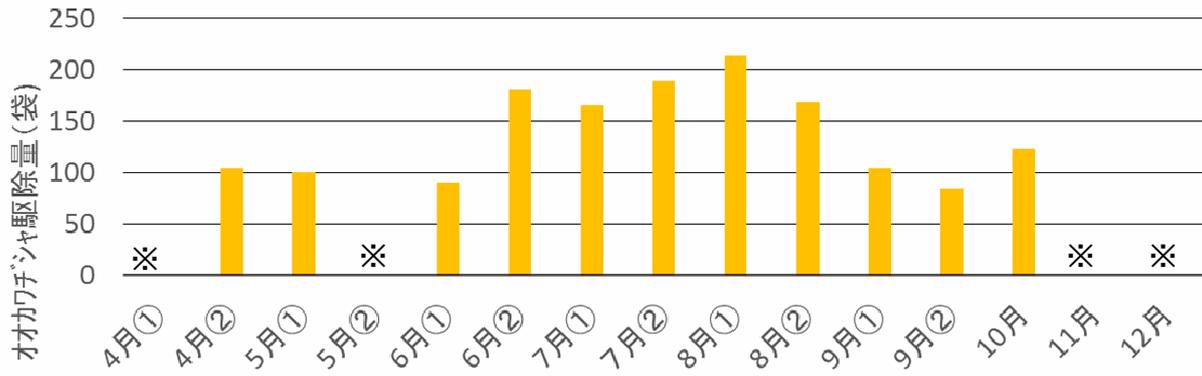
駆除の効果:

駆除した箇所はオオカワヂシャが減少。
 (特に密度が濃く生育している箇所)
 ミヤマイトモの生育範囲が増加して維持されている。



駆除を重点的に実施している最上流部では駆除の効果がみられる！！

3.オオカワヂシャの生態と状況 平成27年度オオカワヂシャ駆除量



4.今後の対策について 課題と今後の対策

課題: 駆除の効果はみられるが駆除の範囲に限られる

対策: 駆除方針の見直し

自然再生改定に合わせた駆除対策箇所の見直し
 →状況の変化(植生・駆除方針)を反映
 継続的に駆除を実施するための体制づくり

具体案:

駆除方針の見直し

→現状の駆除に加え、より効率の良い駆除の実施を検討

駆除対策箇所の見直し

→状況の変化(植生・駆除方針)を反映させた見直し

継続的に駆除を実施するための体制づくり

→多様な主体が参加するための仕組みづくり

駆除を継続的に実施しながら、
 自然再生計画が終了した後の対策・体制を検討する。

